

武蔵野市新型コロナウイルス感染症対策専門家会議第1回会議について

1 開催 令和2年3月9日（月） 午後7時～8時30分
市役所6階庁議室

2 委員（敬称略・五十音順）

氏名	職名等	
田原順雄	一般社団法人武蔵野市医師会 会長	座長
長澤正之	日本赤十字社武蔵野赤十字病院 小児科部長 病院感染管理室長・感染対策チーム リーダー	副座長
倉井大輔	杏林大学医学部付属病院感染症科准教授・診療科長 感染対策室室長	
田原なるみ	東京都多摩府中保健所 所長	
中嶋伸	一般社団法人武蔵野市医師会 副会長	

3 概要

<新型コロナウイルス感染症に関する基礎知識とこれまでの経過>

- 2020年3月7日現在、日本の感染者数は1157人、死亡者13人。
- 中国本土の患者数は確定日ベースで減少傾向にある。
- 新型コロナウイルス感染症は、感冒様状態（風邪と同じような症状）で始まるので、当初は本人も気づかず医師の診断も難しい。重症化の場合は7日目程度から呼吸苦が出現する。
- 国際機関が発表した「入院を要した COVID-19 の 1099 例の傾向」としては、女性が 41.9%・男性 58.1%、年齢中央値 47 歳、15 歳未満 0.9%、入院時発熱 43.8%、ICT 入室 5.0%、人工呼吸 6.1%、死亡 1.4%。

<市内で感染者（濃厚接触者）が出た場合の対応>

- 現在の事例では、小児の感染はほとんどが家族内感染で、無症状、軽微な症状。
- 小児対策は、家族内感染を捉えて二次、三次感染を抑えるのが効果的。
- 小児の感染が確認されたら、その小児が通う保育園の関係者全員が濃厚接触者となり、二週間の閉園が必要となるのではないかと思う。
- 他自治体保育園の対応事例が参考となるので注視が必要。
- 学童、小中学校は、学校全体よりクラス単位での休業対応など、小規模な濃厚接触に絞ることも可能。
- 市職員など大人の場合は、症状が出たら休ませるなど、すでに様々な事例が出ているので、そういった事例を参考に対策を行う。しっかりとした隔離対応が必要。

○施設で感染者が出た場合、消毒等で閉鎖せざるを得ないケースも出てくる。

<小中学校・文化施設等の休業・休館期間の延長の可否について>

- 専門家でも拡大感染の終息時期はわからない。長期間続く可能性もある。
- 一般的に文化施設などは、不特定多数の人が集まり危険なため、なるべく閉館した方が良い。図書館を開館するのであれば、小中高校生に限定した貸出と返却のみなどを行う運用を検討すべき。
- 図書館の貸出を実施するにあたっては、密集を避け、換気をしっかり行うことが必要。長期間の濃厚接触がないのなら大きな問題ではない。人の動線などもよく考えて実施し、可能であれば日にちをずらしたり、時間をずらしたりする工夫が必要。
- 市立小中学校の休校について、国の方向性を覆すエビデンスがあるなど、何らかの大きな状況の変化がない限り現状のまま休業を続けるべき。
- 空間的に学童クラブは子どもが密集して、濃厚接触になりがち、一日2回の検温、アルコール消毒、マスク対応の徹底など体調管理をしっかりと行う姿勢が必要。空間的には学童クラブより学校の方が安全であると思う。
- 17日までの休館としている武蔵野市の文化施設、図書館、体育館などについて、図書館、体育館の全面開館は難しい。政府の指針として「軽症者は自宅待機」との要請が出ているため、一般的には施設が開館すると地域における感染のリスクが広まってしまう。
- 高齢者と子どもなど世代間交流について、高齢者と多世代の接触する機会を増やすのは勧めない。現時点では子どもから感染した事例はないが、小児感染例の殆どが無症状・軽症であり、高齢者は重症化しやすいことを考えると、高齢者に子どもを預けるのは勧めない。
- 武蔵野市はテンミリオンハウスなど高齢者が集う事業や施設が多いが、極端に高齢者と接触する頻度が増えることは良くない。
- 基礎疾患のある高齢者の重症化が顕著なので、高齢者の感染が多いと思われがちだが、実は50歳代～60歳代の感染が多い。50歳代～60歳代は行動範囲が広く、高齢者はその年代層の感染者からの二次感染が多い。高齢者をケアしている人の感染予防が必要。

<今後の検査・医療体制について>

- 「行政検査」と「保険検査」の2種類になる。両病院とも、民間検査機関に委託し検査の拡大・充実を図っている。
- この地域で死亡者を出さないという目標を立てて、重症化予防対策を強化するとともに、医療崩壊を招かない対策を講じていく必要がある。

以上